

第1回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 6 月 2 日（金） 10:00～12:00
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 206 会議室
3. 出席者：
（委員）喜連川委員、竹中委員、永井議長、成宮委員、堀田委員、山本委員

（事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、樽林執行役、泉統括役、松尾
経営企画部長、岡安総務部長、星野経理部長、中村研究公正・法務
部長、天野知的財産部長、岩本戦略推進部長、森田産学連携部長、
野田国際事業部長、加藤基盤研究事業部長、吉田臨床研究・治験基
盤事業部長、久保革新基盤創成事業部長、大場経営企画部次長
4. 議事
 1. 日本医療研究開発機構の自己評価について
 2. その他
5. 議事の概要

事務局より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、研究・経営評議会規則 3 条 2 項により、委員の互選により永井委員を議長に選出した。

議事 1 について、事務局より、自己評価及び外部評価の実施概要及び平成 28 年度自己評価報告書（案）の概要について説明が行われた。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

○「③臨床研究及び治験データマネジメントの実行」で挙げられているものは実行のための準備段階の話であるが、A 評価でよいのか。

○3つの学会を一つにまとめて画像等データベースを整備していくよう誘導するのは極めて重要な取組であり、高く評価したい。

○プロジェクト連携シンポジウムは非常に大きな意味があったと思う。

○RIO ネットワークの活動を進めていけば、今後、A 評価に近づくのではないかと。

- 若手研究者の育成について、一昨年より広がりが出て質もよくなっていると思う。若手の育成は事業ごとに違っているので、全体としてどういうことを学んだらよいかといったことが出来てくるとよいのではないか。
- 海外事務所が活動を開始したことで、日本で知られていない色々な情報の収集が可能になるのはメリットだと思う。
- PS/PO 会議の運用手法は、領域の特性があると思うが、スタンダードがあるといいのではないか。
- オールジャパンでの医薬品創出は、企業へのライセンスアウトは 15 件となり、順調に進んでいるように思う。GAPFREE や DISC といったフレームワークも非常に有用と思うし、次世代PPI阻害ライブラリーも大事。
- 医療機器については、今後、シーズや新しい技術のみにとらわれずに、単純でもニーズを解決できる医療機器の開発を推進していただきたい。
- 医療現場だけでは解決できない加齢によるヘルスケア問題等について、海外ではアプリを活用した研究が進んでおり、日本でも、このような医療研究開発を推進することも考えてもいいのではないか。
- 革新的医療技術創出拠点プロジェクトにおいて、医師主導治験や FIH 試験がかなり実施されているが、今後、アーリーフェーズの探索研究の実施等について企業の希望があるようなので、取り入れていただきたい。
- がん研究については、これまでばらばらだったのが統一感が出てきたと思う。
- ワクチンの研究開発については、接種後の副作用の発生の監視や社会の受入れの問題があり、ゲノムのプロジェクトでの取り組みにある ELSI の考え方を取り入れるとよいのではないか。
- 精神・神経疾患の研究開発については、精神疾患と神経疾患それぞれについて基礎研究からどういうストラテジーでつなぐのかを海外の取組も見ながら見える形にしていきたい。
- 免疫アレルギーの研究における海外での話題が主にヒトを対象としたものになっていることを日本も考えておく必要があるのではないか。
- 機構内外の講師を招いた職員研修は引き続き実施していただきたい。
- 夜遅くまで勤務される職員がいるので、職員の勤務時間管理や、業務の外部委託の推進をお願いしたい。

事務局は本日出た意見を踏まえて外部評価報告書(案)をとりまとめ、6月21日(水)に開催予定の第2回研究・経営評議会の前までに委員に確認を依頼することとされた。

加えて、第2回研究・経営評議会では、AMED 研究開発マネジメントシス

テム(AMS)の活用等について、機構から委員に説明することとされた。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。